

私たちにおなじみの「歸命無量壽如来」で始まる「正信偈」は、同じお経といっても「仏説」の文字はついておりません。

お釈迦さまは相手に応じて法を説いておられるので、いわゆる「八万四千」といわれるように多くの教説が伝えられています。ただ在世中は語られたものであり、書き記されたものではありません。ご入滅された後、師のお言葉を正しく次代へ伝えるために、高弟の迦葉を中心としてお弟子がたが、お説法を一定の言葉にまとめ、みんなで称えることを申し合わせました。それがお経の始まりです。

どのお経も「私はこのように聞きました」という言葉で始まっていますが、この「私」とは阿難というお弟子です。阿難さんは秘書のような役目をし、常にお釈迦さまの説法を身近で聞いていました。記憶力抜群の阿難さんの言葉を皆でまとめあげ、忠実に口伝えされていきました。文章化されたのは、それから四、五百年の後と推定されています。